

こんなこともできました

バス停を改修しました

自分の活動報告通信を手配りで歩いているときに見つけた悲惨な姿のバス停。

きっと事故を起こした人の弁償で修理されるのだと思い込んでいましたが、二か月たっても一向に直りません。

しびれを切らし交通局に問い合わせたところ、交通局も知らなかった事が判明。

大至急に修繕するよう申し入れ、予算を確保してもらい元通りの姿になりました。

割れ窓理論といって、街に落書きや壊れた車が放置されるとその街の犯罪率が増えるそうです。

壊れたまま放置された公共物があることでその街の治安が不安定になっては困ります。たかがバス停かもしれませんが、身近な公共物も大切に見守っていききたいと思います。



水はけの悪い側溝を改修しスッキリ解決！

瀬古学区内にある会社の支店長さんとの会話のなかで

「実は雨が降ると側溝に水がたまり、いつも私が竹ぼうきで掻き出しているんですよ」とのお話を伺いました。

調べてみると、車の乗り入れの所がL型側溝になっていて雨水を受け入れる所もなく、デコボコになっており雨水がたまってしまっている状態になっていました。

さっそく土木事務所と連携を取り、予算を確保したうえで工事に着手。

側溝の全面改修と、雨水を受ける集水柵も数か所取り付け、ようやくこの4月に工事が完了しました。

今では雨水もたまらなくなりスッキリ！歩行者にやさしい道路にかわりました。



リノベーション住宅の可能性を調査

このたび市営高坂荘（天白区）の4部屋を試みのリノベーション住宅として改修し、若い世帯向けの住宅として募集しました。

公営住宅の多くは昭和40年代の高度成長期時代以降に建てられ、守山区内だけでも30以上の住宅があります。築40年を超える住宅も多く住宅の老朽化と並行して入居者の高齢化も進み、地元地域の消防団員、保健環境委員、民生委員、学区町内会役員の人手も不足するなど地域コミュニティの今後のありかたが難しくなっているのが現状です。

私のところに寄せられるご相談では公営住宅入居希望に関するご相談と併せてこの課題に関するご相談も最近特に多く、私自身も住宅にお伺いしては皆さまのご相談を直接お聴きし、課題解決に向けて様々な調査や対策に取り組んでいるところです。

今回はこの取り組みの一つとして調査をしてみました。

リノベーション住宅とは何か。元の目的に合うように修繕をする『リフォーム』とは異なり『リノベーション』とは、そもそも住宅を建設した当時と設計目的は違うが、現代の要望を取り入れた全く新しい部屋に改修することをいいます。

住宅丸ごと建て替えると莫大なお金がかかりますが、たとえば今の若い世帯が望むような部屋に修繕することで少しでも空き部屋対策にもなり、地域の担い手が増えることも期待できます。

市営住宅のリノベーションをきっかけに街全体に活気があふれるような仕掛けと仕組みづくりの提案と対策を名古屋市に対し積極的に推進してまいります。



